

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：12605

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520395

研究課題名（和文） ジャナイ下降調における前接語アクセント型別否定・文末詞のピッチパタンの確定

研究課題名（英文） Determination of the pitch patterns of negative and affirmative sentences realized as noun-adjective+zyanai (falling intonation), classified by the word-accent type of the preceding noun-adjectives

研究代表者

御園生 保子（MISONO YASUKO）

東京農工大学・国際センター・教授

研究者番号：00209777

研究成果の概要（和文）：アクセント型の異なる語幹が 2 拍の形容動詞を選び、＜否定＞および＜文末詞＞のジャナイが接続した文の下降調について音響分析を行い、それぞれの用法として適切なピッチパタンの特徴を定性的に分析した。否定文は形容動詞ジャ+ナイ、肯定文（文末詞）は形容動詞+ジャナイと分節される。

形容詞の否定文では前接語及びナイの語アクセントが両方実現する。動詞の否定形に比して否定のナイの韻律的な独立性が高いことは、動詞否定形のナイを助動詞、名詞・形容動詞・形容詞の否定のナイを形容詞とする一般的な品詞分類の韻律的な根拠となる。

研究成果の概要（英文）：Two-mora noun-adjectives of different word accent types were chosen for the analysis. Negative sentences and affirmative sentences, both realized as noun-adjective + *zyanai* (falling intonation) were acoustically analyzed to find pitch pattern characteristic to each usage. Negative sentences can be prosodically analyzed as noun-adjective-*zya+nai*, whereas affirmative sentences are noun-adjective+*zyanai*.

In the negative sentences made up of noun-adjective-*zya+nai*, both the preceding noun-adjective and the negative element *nai* keep their word accent. Whereas in the negative form of verbs *nai* loses its word accent, *nai* in the negative form of noun-adjective is prosodically more independent.

This finding gives prosodic basis for categorizing *nai* in the negative form of verbs as auxiliary on the one hand, and *nai* in the negative form of adjectives, noun-adjectives, and nouns as adjective on the other.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,700,000	510,000	2210,000

研究分野：言語学・音声学
 科研費の分科・細目：3001
 キーワード：

ジャナイ 否定 文末詞 下降調 ピッチパターン 語アクセントの型

1. 研究開始当初の背景

- (1) それまでの研究でスキジャナイ（否定・文末詞）について双方の用法と聞こえるピッチパタンの範囲を確定した。
- (2) 形容動詞のアクセントが0型、1型の場合について同様に分析し、それまでの結果を発展、検証する必要があった。

2. 研究の目的

語幹が2拍の形容動詞で、語アクセントが0型、1型、2型の語に否定/文末詞の用法のジャナイ（下降調）が接続するとき：

- (1) それぞれの用法に聞こえるピッチパタンの範囲を試聴実験によって提示する。
- (2) それぞれの用法のピッチパタンの特徴を定性的に記述する。

3. 研究の方法

- (1) 訓練を受けた話し手が、トクジャナイ、タダジャナイ、スキジャナイの否定と文末詞の発話を録音する。その音声を複数の東京方言話者によって評価し、それぞれの用法としてもっとも評価の高かった音声を、試聴実験用刺激の元音声とする。
- (2) 録音された音声の音響分析をし、否定・文末詞の用法に特徴的なピッチパターンを定性的に記述する。

4. 研究成果

(1) ピッチパターン

刺激の音響分析の結果から、否定は形容動詞+ジャ+ナイと分節され、前接語のアクセント、否定のナイのアクセント、双方が実現する。文末詞は形容動詞+ジャナイと分節され、形容詞のアクセント型が強い上昇を伴って実現された後に、ジャナイが直線的に下降する。

下にそれぞれの用法の発話音声について、計測できる母音の始まり、中ごろ、計測できる終わりの3点ではかったピッチの平均から得られるピッチパターンを図示する。上から、トクジャナイ(0型)、タダジャナイ(1型)、スキジャナイ(2型)である。図中青で示したのが文末詞、赤が否定の用法である。

否定と文末詞の用法のピッチパタンの特徴は以下のようにまとめられる。

- ①「トク(0型)、タダ(1型)、スキ(2型)」のアクセント型に共通して、文末詞のついたピッチパターンは否定のピッチパターンより高

いピッチで推移し、ナイの途中から否定よりわずかに低くなる。

② 3例に共通して否定のナイがささやかな山(半音以下)を作っている。

③ 文末詞に特徴的な高いピッチからの下降を伴うピッチパターンは、強調のピッチパタンの一種と考えられる。

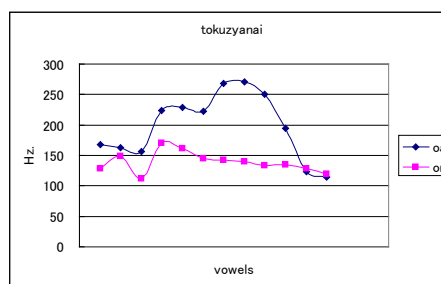


図1 タダジャナイ

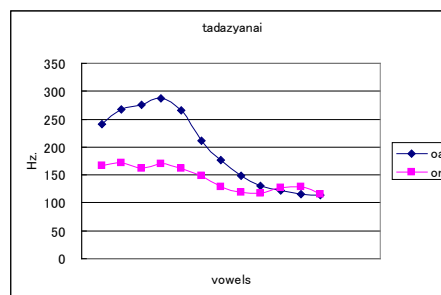


図2 トクジャナイ

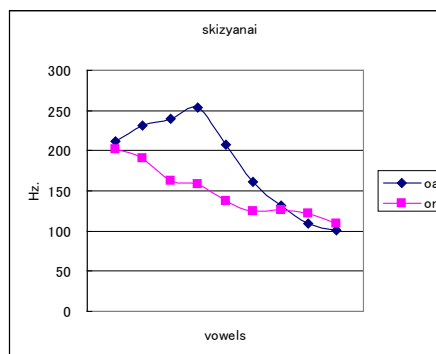


図3 スキジャナイ

(2) 持続時間

否定/文末詞の用法で、それぞれの分節音の持続時間に違いがある。3語に共通して否定のほうがジャが長く、ナイが短い。誇張して言えば文末詞は、スキジャナアイ、否定はスキジャナイ。また、否定のほうが形容詞の持続時間が長い傾向が見える。次の表に示す。

表 語幹：ジャ：ナイ 持続時間 (sec.)

	語幹	ジャ	ナイ
文末 toku	0.37	0.19	0.42
否定 toku	0.42	0.21	0.36
文末 tada	0.40	0.18	0.40
否定 tada	0.42	0.21	0.36
文末 suki	0.41	0.18	0.41
否定 suki	0.44	0.21	0.34

(3) 音の強さ

用法のよる違いでもっとも目立ったのは、ジャナイの部分の弱まり方の違いである。文末詞のナイは全体で右下がり弱まる形になる。否定のジャナイは、ジャからナイまであまり弱くならならず、強さを維持する形で続き、最後のナからイにかけての下がり目で直線的に弱くなる。文末詞の用法では意味の中心が前半の形容動詞の部分にあり、否定文では否定部にも前半と同様に意味の中心があることと対応している。

(4) ピッチを分析再合成した刺激による予備的な聴覚によると、加工音声はどちらかの用法に聞こえるか、どちらにも聞こえないかである。否定、文末詞の用法は、それぞれの用法に聞こえる範疇的なピッチパタンの範囲を持つ独立した用法と解釈できる。

①否定のナイの小山をつぶすと、否定に聞こえなくなる。

②文末詞のジャナイの急激な下降は、ジャが高くナイが低いのが特徴だが、ジャで急激に下がってしまうと文末詞に聞こえない。

(5) 形容動詞否定のナイは、名詞、形容詞否定のナイとともに形容詞に分類されている。いずれの場合も否定文は～ジャナイであり、否定文のアクセントは[前接語のアクセント+ナイのアクセント]になる。これを動

詞の否定と比べると、動詞の否定は「否定形」という形をとり、否定形全体で1個のアクセントを持つ。否定形のアクセントは動詞のアクセントで決まり、動詞が0型であれば0型、起伏型であれば動詞のアクセントが実現されてから低くつく。現行の品詞分類では、動詞否定のナイは付属語として助動詞に分類され、名詞等それ以外の品詞の否定として用いられるナイは形容詞に分類されている。本研究で明らかになった形容動詞文(およびその他の品詞の否定文)でのナイの韻律的なふるまいは、この品詞分類に対する韻律的な根拠となる。動詞否定文とその他の品詞の否定文のピッチパターンを、ナイ(助動詞と形容詞)の品詞分類の根拠としてあらためて指摘したことは新しい。

(6) 今後の展望

①まず、より品質のいい音声加工をおこなって、あらためて聴覚実験を実施し、精度のいい用法ごとのピッチパタンの範囲を導きなおしたい。これは昨年度諸般の事情で十分にできなかったことである。これによって、日本語学習者に対する指示もよりはっきりしたものになるはずである。

②動詞の否定形について原則にあわないアクセントの実現が報告されている。田中宣廣によれば、「タテナイ」は規則どおり0型で発音されるが、「タテナイ」であればナにアクセントの下がり目がある形で実現され、テナイを付属語として扱うべきという。郡(私信)は、否定文の文末で、ナイにアクセントの山がある形を耳にしたという。確かに「そんなの知らない」をナにアクセント核がある言い方は可能であるような感触がある。「知らないね」は、ナイにアクセント核がなくネに続けば、「自分は知らない」と無関心に言っている感じで、ナにアクセント核がある場合はネが高くつくのとあいまって、相手に念を押しているような感じになりそうである。

動詞否定形も活用形ではシラナケレバのようにナイの部分に下がりが目が出ることもある。起伏型動詞ではタベナケレバのように「べ」にアクセント核があるが、ナのとでも副次的に下がっていくので下がり目と感じられないわけではない。動詞の活用形と、形容詞等の否定形が混交してしまう可能性も捨てきれない。

動詞否定形の言い切りの形のピッチパターンでナイのナにアクセントの山があるかどうか、「揺れ」と呼ぶのが適当な、表現意図は同じだけれどアクセントの実現形に複数の型があるというものなのか、それともあるピッチパターンがある表現意図と対応しているものなのかを解明して記述していくことが、今後の重要な課題と考えている。

動詞以外の否定形の場合でも、ナイの発音はさまざまである。非常に短く、ナイのイが二重母音としてナにほとんどくっついて発音されるような場合に、ほとんど平坦のように聞こえることもあるが、その場合でもイとナが同等の高さということはなくナイのアクセントは保持されている。0 型動詞否定形の場合にナイがアクセントを持って発音されるとすれば、単純には否定部分に発話意図の面で重要なものがあると考えられるが、すべての否定形は marked な形式であり、否定形であるだけで目立っているはずである。実際に動詞否定文がどう発音されるか、またナイに下がり目がある否定文と通常否定文に解釈の違いがあるか等を分析していくことで、ナイをめぐる周縁的な現象をていねいに記述し、解明していきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[図書] (計1件)

上野善道監修、明治書院、日本語研究の 12 章、2010、p.355-p.367

6. 研究組織

(1) 研究代表者 御園生 保子

(MISONO YASUKO)

東京農工大学・国際センター・教授

研究者番号：00209777

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし